

## 2015 年度第 4 四半期決算説明会（2016 年 2 月 10 日開催）

### 質疑応答要約

- 【Q】決算説明資料 P24 に記載の 2016 年以降のパイプラインについて、具体的に上期・下期のいつ頃に業績インパクトが出てきそうかコメント頂けますでしょうか。
- 【A】左側に位置するタイトルの方がよりローンチ時期が早い計画になっています。しかし、ゲーム開発は必ずしも計画通りに進まないこともあるため、具体的なローンチ時期や業績への寄与時期について申し上げることが難しい状況です。第 1 四半期の韓国においては、大型モバイルタイトルのローンチ予定はありません。

- 
- 【Q】当第 4 四半期決算発表でアナウンスされた資本金などの振替は、どのような状況を想定した施策なのでしょうか？
- 【A】株主還元の原資はネクソン日本法人単体ベースの利益剰余金及びその他資本剰余金です資本金の振替を行うことによって、長期的な株主還元を含めた柔軟な資本政策をとることが可能になり、結果として資本効率が上がると考えました。
-

【Q】第4四半期の費用のうち、「その他の費用」が40億円弱計上されていますが詳細を教えてくださいませんか？合わせてgloopsののれんの減損損失の可能性を含めて、今後の見通しについて教えてください。

【A】ゲーム事業を行っている中で価値が減じた一部のゲームIPや子会社に係るのれんについて減損損失を計上しました。これは每期ある程度発生するものですが、当第4四半期については「その他の費用」のうちおよそ半分程度が減損損失に該当します。ただし、複数のタイトルのゲームIPや子会社ののれんに係るもので、一つ一つの金額はさほど大きくありません。

Gloopsについては現時点では当社の計画通りに推移しており、2015年期末でのれんの減損損失は発生していません。但し、今後ローンチ予定の新作による売上収益の寄与を合理的に見込んでおり、具体的には4月にローンチ予定の『ラプラスリンク』の業績が当社の期待から大きく乖離する結果となれば減損損失が発生する可能性があります。

---

【Q】韓国の第4四半期のモバイル売上収益が前四半期比で約30億円増加しましたが、これは大半が『HIT』の1.5カ月分の寄与によるものと考えて良いでしょうか？

【A】大部分が『HIT』の約1.5ヶ月分の寄与と当第4四半期に3ヶ月間フルで寄与した『DomiNations』によるものです。

---

【Q】中国における成長戦略また、新規で配信予定のPCオンラインゲーム『メイプルストーリー2』の中国配信の施策について教えてください。

【A】中国では現在主力タイトル『アラド戦記』を大変安定的に運用することができています。その上で、新作を投入していくことで更なる成長をしていきたいと考えています。『メイプルストーリー2』はとてもクオリティの高いタイトルであり、中国で有力なパブリッシャーであるテンセントと共に、中国市場に受け入れられるような形で配信していきたいと考えています。

【Q】 Owen 社長が就任されてから、オペレーションの見直し、パブリッシング契約など事業経験が蓄積され、韓国及びアメリカでその成果が見られています。残る課題である日本事業を含め、2016年の重点課題とその取り組み方について教えてください。

【A】 当社の戦略はとてもシンプルでありながら強力です。我々はゲーム事業をアートの一つと捉え、面白くて他のゲームとは差別化された素晴らしいゲームを開発することに注力しています。素晴らしいゲームを開発できたとき、より広い層から私たちのゲームが受け入れられ、そして当社の運用能力を活かして世界中の人々にこれらのゲームを提供することが可能になります。その上で重要となるのが当社のもう一つの戦略であるライブゲーム運用とライブ開発で、この二つが組み合わさることで長期に渡りゲームを配信して成長させていくことが出来ると考えています。この戦略はとても強力であり、この戦略の実行に当社は注力してきました。しかし、他の地域と比べて日本では望んでいたほど迅速にこの戦略を実行することが出来ませんでした。ゲーム運用力を向上させ、そしてゲームのパイプラインを充実させることが重要であると考えたため、他の地域で実行し成果を上げてきた様に、日本事業においても同様に戦略の実行に注力していきたいと考えています。

---

【Q】 第1四半期の中国の業績予想が会計基準ベースで前年同期比10%台前半から一桁%台前半の減少とありますが、これは全て為替要因による減少と考えて良いでしょうか？『アラド戦記』の旧正月アップデートが順調とのことなのでやや計画が慎重であるように見えますが、可能であれば現地通貨ベースの見通しも教えてください。

【A】 為替の影響が大きいと考えています。一定為替ベースでは前年同期比で微減から微増を予想しています。旧正月アップデート以降、足元のトラフィックも含めて安定推移していますが、安定運用が主眼のため、大きな課金政策をせずに前年同期で横ばい程度を目指すのが当社の戦略です。

---

【Q】 通期の税率に対する考え方を改めて教えてください。

【A】 税率は四半期毎に見積もりベース費用を認識していることやワンタイム要因のものも含まれるため、上下することがありますが、2015年同様、2016年の通期の税率は20%前後となる見通しです。